資料６　保健福祉審議会
地域共生専門部会
令和３年１０月２０日

原地区での取組

（ゆるやかな地域内での見守りづくり）

原地区の地域特性（１）

人口：1,412人　（令和3年9月1日現在）
世帯数：726世帯
高齢化率：44%
第１号要介護認定率：19.7%　（令和3年4月1日現在）
学校：原小学校、原保育園
福祉施設：特別養護老人ホーム３か所

（生活支援体制整備事業受託時）
地域ケア会議：未設置
福祉課題について協議できそうなコミュニティ内の組織：まちづくり部会（「原づくり倶楽部」「花づくり倶楽部」「防災倶楽部」の部会メンバーが参加。福祉部会は定例会は無く、サロンや敬老会の運営を行う）

原地区の地域特性（２）

・地区のほとんどが田園集落地であり、農業を営む人が多い。
・極楽寺山から山裾の谷間に広がる地域で、可愛川の源流となる、長野川、川末川が流れている。急傾斜地が多く、地区のほとんどが土砂災害警戒区域・土砂災害特別警戒区域になっている。
・そのため、地域防災については関心が高く、防災倶楽部で避難経路の確保や、避難訓練等を実施されてきた。
・地区内にある一景園団地では小地域のお互い様活動が行われている。買い物に行くときには声をかけて必要なものを買いに行ったり、乗り合いで買い物に行くなど、自然な助け合いができている。
・地区内にある小学校を閉校させないために、地区に新たな人を受け入れる取り組みも行われている。
・移動手段は、原・川末地区はさくらバス、後畑地区では予約型乗合タクシーの実証運行が実施されている。
・買い物が難しい人たちのために、週１回マックスバリュ号が原市民センターに来る。その場でちょっとしたサロンができている。

協議の場づくり

○原地区コミュニティ推進協議会福祉部定例会
平成２９年に発足。コミュニティ福祉部員、コミュニティ会長、社協で構成。
原地区福祉資源マップなどを作成。出前サロン実施。
原地区の今後を考える中で、「福祉部員（＝民生委員）だけでは、地域の見守りは困難」との意見が出る。
→民生委員ＯＢを中心に福祉部員を増員する。また、見守りを行うための助っ人を募集する。

○原お互いさまネット
令和２年２月に発足。原地区コミュニティ推進協議会福祉部定例会メンバー、地域住民有志、事業所（特養）職員、社協で構成。
→「ゆるやかな見守り」を行い、３カ月ごとの定例会で、「気になる人」や「気になること」の情報共有などを行う。

これから進めていくにあたって

□福祉部会員さんからの意見

→「買い物は生協も来てくれる。マックスバリュー号も来てくれる。でも、医療は『行かないといけない』しかし、「高齢になると、車の運転は不安。『免許返納』を考えている。昼間、若い人たちは働きに出ているので、運転をしてくれる担い手も少ない。

□避難行動要支援者について

→普段からの「気にかけあえる」関係づくりが、災害時に生きていくことを住民さんが「我がこと」としてとらえててもらえることが重要。そのためには、廿日市市の福祉総務課、危機管理課、地域政策課等の連携が必要。

今後の動き

〇お互い様ネットでの気になる人のマッピング作業を行う：「移動」をキーワードに…

・バス路線から離れている人
・単身もしくは老々世帯
・足腰が弱くなっている人　などなど

今は何とかなっている。その「なに」を導き出したい。

何とかなっていることをできるだけ長く支援をしていきたい。
それを災害時の支援行動とリンクして進めたい。